

## 唐川茶畠



唐川茶畠・新茶まつり

唐川町の山地緩斜面や谷地で、鰐淵寺から伝わったというお茶の栽培が古くから盛んにおこなわれている。新茶の季節には、新茶、番茶、茶そば、茶餅などのほか、地元の特産品が販売される新茶まつりが行われ、のどかな山里が大勢の人で賑わう。

## ウップルイノリ



十六島・海苔摘み風景

ウップルイノリは、日本海沿岸、北海道、東北地方の太平洋岸の広い範囲に自生する海藻の正式な名称。十六島海苔は、冬季に岩から剥ぎ取り製品加工したもので、古来より全国に知られている。

## 釜浦海岸



## 秋祭りの獅子舞



## 奥宇賀町の冥土さん（夜見神社）

江戸時代の松江藩の地誌「雲陽誌」に「黄泉の穴」と書かれ、今まで毎年例祭が行われている。

江戸時代の国学者本居宣長(もとおりのりなが)の著書「玉勝間(たまかつま)」にも「冥途(めいど)の穴」として紹介された。

### ▶お問い合わせ先

(一社)出雲観光協会平田支所

TEL : 0853-63-0893(休: 土日祝日)  
Eメール : hirata@izumo-kankou.gr.jp

## からかま 韓龜神社



韓龜神社駐車場から杉木立の中を川沿いに800mほど進むと、右側に鳥居が現れる。急勾配の石段を300段ほど登ると巨岩に囲まれた社がひっそり鎮座する。

鳥居近くには、素盞鳴命(すさのおのみこと)が乗られた船が「岩船」となり残っている。

## 猪目洞窟



猪目洞窟

「出雲國風土記」に書かれた「黄泉の穴」の有力な候補地とされている。縄文時代から弥生時代にかけての埋葬と生活の遺跡が発掘され、人骨、木棺、土器、鉄器など多数の遺物が出土している。

## 黄泉の穴



黄泉の穴

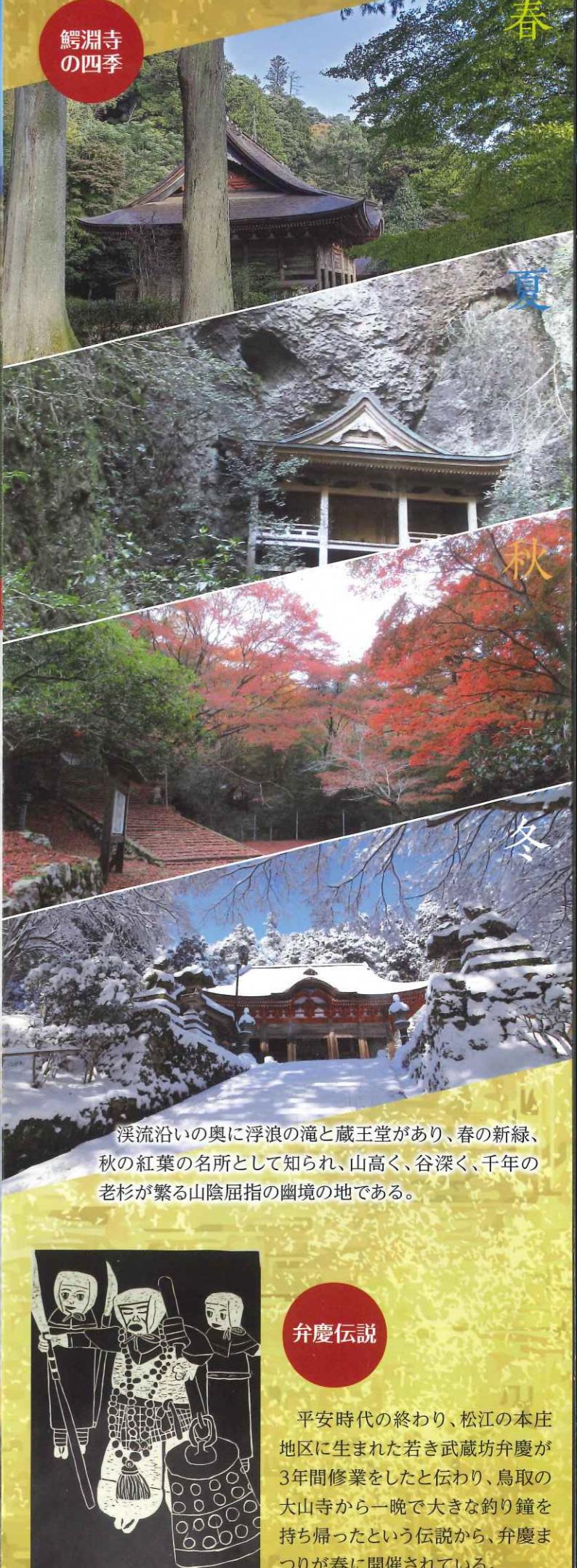


## 『出雲國風土記』 を体感する旅 ～『去豆の折絶』を行く～



平田方面から十六島湾に続く山塊の切れ目をいいます。七三三年に完成した「出雲國風土記」の初め、「くにびき神話」中で、最初に神が引いてきた山塊が左側です。次に引いてきたのが右側の山塊です。その切れ目を「去豆の折絶」といいます。地層は「去豆の折絶」で大きく曲がって谷型になり、山塊との間に断層も発達し、特異な地形と地質を示す場所です。周辺には「出雲國風土記」の神話にまつわる神社や多くの古代遺跡が存在します。

## 鰐淵寺 の四季



春

夏

秋

冬

## 弁慶伝説

平安時代の終わり、松江の本庄地区に生まれた若き武蔵坊弁慶が3年間修業をしたと伝わり、鳥取の大山寺から一晩で大きな釣り鐘を持ち帰ったという伝説から、弁慶まつりが春に開催されている。



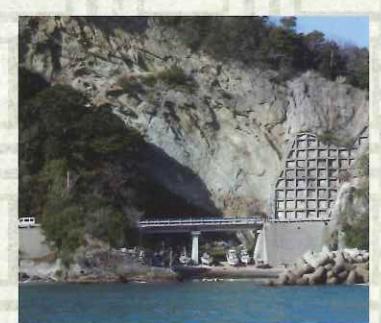
### ⑨ 河下港

古くから港が開かれており、江戸時代から鰐淵鉱山で産出される銅、亜鉛、石膏などの積出港として栄えた。鉱山の閉山後は碎石の積み出しが行われている。近年、国の港湾整備が進み、5000トンバースが完成した。好天日には、岸壁や防波堤からの釣り客が多い。



### ⑧ 畔島

垂水(たるみ)川河口の西にある岩場。泥岩層と砂岩層が沖合に向かって交互に重なり、潮が満ちたときは砂岩層だけが水面に表れて、田んぼのあぜ道に見える。



### ⑦ 猪目洞窟

猪目湾西側に東向きに開口した幅30m、奥行き30mの岩窟。出雲國風土記記載の「井呑浜」。

湾口東側の岩と岩穴が猪の顔に見えることから「猪目」の名がついたともいう。(雲陽誌)



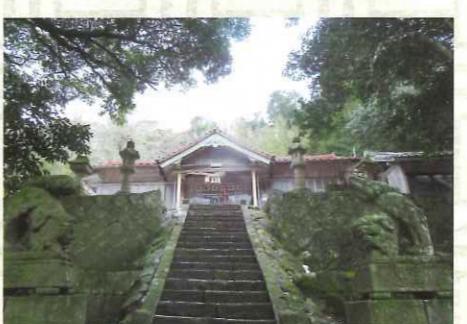
### ⑥ 韓窓神社

祭神の素戔鳴命(すさのののみこと)が古代朝鮮半島から、植林法やたら製鉄などの鉄器文化を持ち帰ったと伝わる神社。参道入口の鳥居から、急勾配で大小不揃いの自然石の石段を上り、幅45cmほどの巨岩の隙間を通り抜けて参拝する。拝殿が唐川町の集落にあり祭礼が行われる。



### ⑤ 鰐淵寺

推古天皇の勅願によって、594年(推古2年)、智春上人によって開創された、天台宗の古刹。平安時代には修驗道場の地、「聖の住処」(ひじりのすみか)として全国に知られた。(梁塵秘抄) 戦国期から江戸時代にかけた中世の繁栄した歴史を今に伝える多くの文化財を有し、境内288haは国史跡に指定されている。



### ④ 意保美神社

河下港の南に鎮座。『出雲國風土記』に記載。主祭神は、猿田彦命(さるだひごとのみこと)、天鈿女命(あめのうづめのみこと)。10月の例大祭には江戸時代から継承される河下獅子舞・神楽が奉納される。



### ③ 夢土さん(夜見神社)

大己貴命(おおなむちのみこと)の求婚を断った「綾門日女命(あやとひめのみこと)」が隠れたと伝わる山中にある穴。地元の人が夜見神社として祀り、冥土さんとして親しむ。



### ⑩ 群境の石碑

出雲國風土記の楯縫郡と出雲郡の境、「宮松崎」を示す無縁墓の墓標。旧出雲市立光中学校入口付近にある。



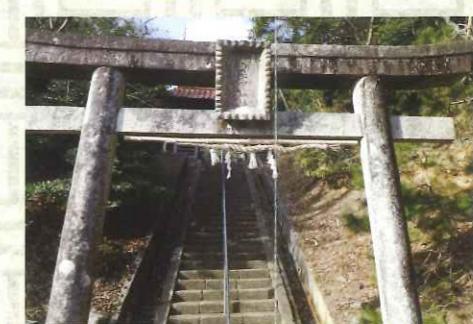
### ⑫ 十六島風車公園

十六島鼻から三津町までの北山の尾根に、26基の風力発電施設が林立している。十六島鼻に整備された風車公園遊歩道からは日本海が一望でき、岩肌からは折絶地層の「牛切層」が観察できる。



### ⑭ 塩津町・石上神社

平安時代に崖崩れで社殿が流失し、ご神体の靈石が沖の海底に沈んでいるとの神告があり、これを引き上げて現在地に祀ったという。地元の人は「石神様」と呼んで崇敬している。



### ② 奥宇賀神社

奥宇賀町地内の「彌努婆(みねば)社」と「布世(ふせ)社」(いずれも「出雲國風土記」に記載)と伊勢神社をこの地に合祀して、奥宇賀神社と改称。主祭神は、天照大神(あまてらすおおみかみ)、伏雷神(伏せいかずちのかみ)など7柱。



### ⑪ 紫菜島神社

十六島町許豆神社の境内社で、「出雲國風土記」に記載。十六島海苔の神様として地元で崇敬されている。



### ⑬ 釜浦海岸・小島

釜浦港の海岸にある奇岩で、小島(おしま)さんと呼び、地元の信仰の対象となっている。



### ⑮ 唯浦・義勇碑

大正5年12月27日に、荒れ狂う冬の海で遭難しそうになっている瞬の漁港の船を助けるために出港して殉難した15名の青年たちの犠牲的精神をたたえるため、唯浦海岸に直立する岩山、「天狗岩」に刻まれている顕彰碑。この事故を風化させることなく、また、犠牲的精神を地区の誇りとして後世に伝えている。



### ① 宇賀神社

主祭神は、大己貴命(おおなむちのみこと)=大國主命と綾門姫命(あやとひめのみこと)。「出雲國風土記」には、大己貴命がこの地を守っていた美しい女神に求婚したが、女神は答えず逃げ隠れたところ、探して(うかがって)求婚したので、この地は、「宇賀(うか)」郷というようになったとある。